

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 岡山観測所の写真5枚（東京天文台100周年記念誌資料2-1-6、14、16～18）**

東京天文台100周年記念誌資料の整理をしており、次々と資料について記事を書いている。今回は東京天文台100周年記念誌資料—その2—のダンボール箱にあった菓子箱に入った多数の写真の一部で

1) 紙箱入り写真

6. 太陽クーデドーム写真1枚

7. 水島の工場の写真1枚

16. 岡山36インチ立派な装丁がしてある写真1枚

17. 岡山74インチ立派な装丁がしてある写真1枚

18. 岡山74インチドーム写真立派な装丁1枚 上記3枚はカラーの痛みがひどい

の5枚の写真である。

これらの写真は、岡山天体物理観測所開所間もなくの写真であろうが、すでにNo.16～18は見る影もなく傷んでいる。今のようにデジタルで保存できていればこのようなことはなかった。写真1は65cm太陽クーデ型望遠鏡がドームスリットから見える写真である。裏面には日付があり、1967年12月12日とある。完成間近の写真である。



写真1

写真2は、裏面に昭和44年（1969年）8月16日とある。メモ書きがあり「中国電力玉島発電所（74吋ドーム、）ニュートン観測台最上段」と書かれている。岡山天体物理観測所は、当時、大きさが日本最大、世界7位の望遠鏡を建設するため日本で一番観測条件に優れた場所として岡山県南西部を選定した。その選定もあったが、当時の岡山県知事「三木行治」氏の勧誘もあった。三木行治知事は、1929年（昭和4年）岡山医科大学（現岡山

大学医学部) 卒業、1934 年 (昭和 9 年) 九州帝国大学 (現九州大学) 法文学部を卒業した医学博士であり、1939 年 (昭和 14 年) 厚生省保険院簡易保険局監理課などを経て、1951 年 (昭和 26 年) 5 月 1 日 岡山県知事に初当選、以後 4 期務め、岡山県の発展の業績で、1964 年 (昭和 39 年) 8 月 31 日 マグサイサイ賞を受賞している。彼は岡山県西南部の水島を新産業都市として工業地帯としたのであった。この岡山県西南部の地域に暗い空が必要な日本一の天文台と煌々と夜明るい新産業都市を同時に誘致するというをやってしまい、岡山天体物理観測所はいわゆる「光害」に悩まされることになったのである。



写真 2

写真 2 の玉島の発電所は、水島湾を挟んだ対岸でより岡山天体物理観測所側にある。ドームの上の方に登らねば見えないのであろう、ニュートン観測台最上部で撮ったとある。今年(昭和 90 年)は 46 年前の写真である。



写真 3

写真3は、工事現場の様子が残った74吋望遠鏡ドームで、36吋ドーム前から撮られている。この撮影位置が定番であった。写真4は、36吋望遠鏡ドームの上から撮影された74吋望遠鏡ドームでスリットの中にニュートン観測台が見える。写真5は、74吋望遠鏡ドームの最上部近くから撮影された36吋望遠鏡ドームである。当時、36吋望遠鏡は光電観測専用で「36吋光電赤道儀」と呼ばれた。

これらの写真は、必死の思いで撮影された記念写真で、立派な装丁がされたカラー写真であるが、保存状態が悪くひどいしみが発生している。



写真4

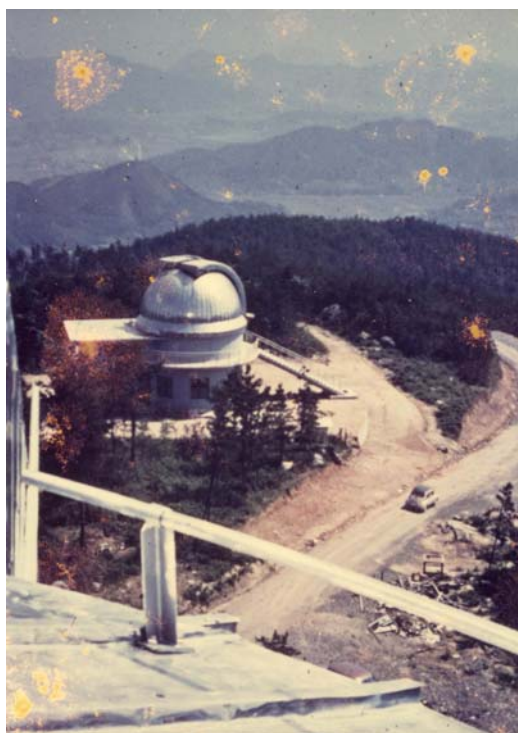


写真5

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp